

## ラベル

任意の条件を付けた各ラベルに対応するデバイスを管理することで、デバイス名を使用せずにラベルでプログラミングできます。ローカルラベルの場合は、《KV STUDIO》が、自動的に内部ワーク領域に割り付けますので、デバイスを意識せずにプログラミングが可能です。

**参考** ローカルラベルを追加しても、RUN中書き込みできます。

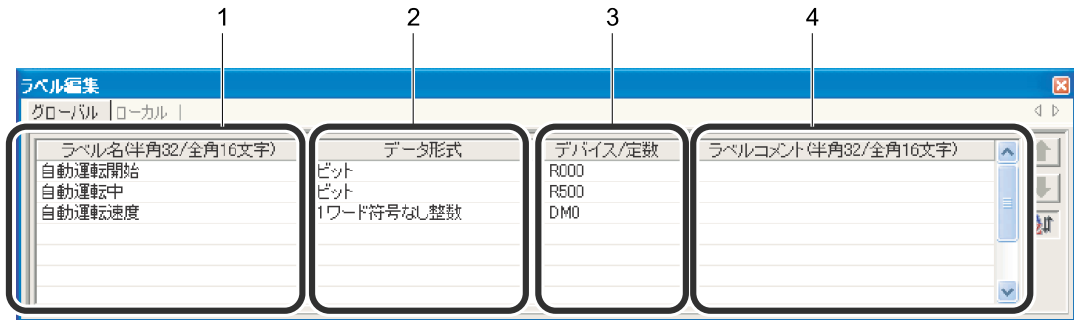
### ■ 入力方法

ラベルの設定は[ラベル編集ウィンドウ]でおこないます。

#### 1 [ワークスペース]内の[ラベル]をダブルクリックします。

**別手順** メニューから【表示(V)】→【ラベル編集ウィンドウ(L)】を選択します。

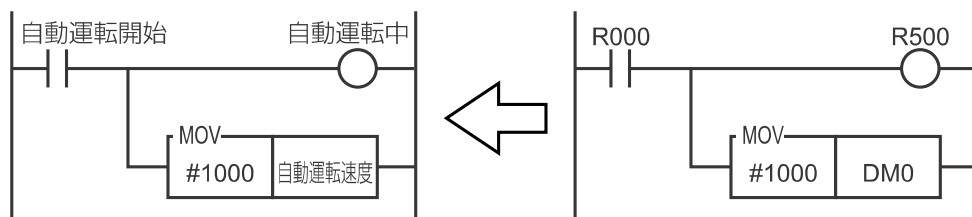
[ラベル編集ウィンドウ]が表示されます。



番号	項目	内容	設定範囲
1	ラベル名	設定するラベル名を入力します。*	半角32/全角16文字
2	データ形式	データ形式を選択します。 <b>！ ポイント</b> 使用するデバイスによって、扱えないデータ形式があります。	—
3	デバイス/定数	ラベルに割り当てるデバイスや定数を入力します。ローカルラベルの場合は必要ありません。 <b>参考</b> ・ラベル設定可能なデバイスはR/MR/LR/B/DM/EM/FM/ZF/W/TM/T/Cです。	—
4	ラベルコメント	デバイスコメントが表示されます。入力できません。	半角32/全角16文字

\* 「付-8 使用できない文字一覧」付-38ページ

[ラベル編集ウィンドウ]で登録したデバイスは、ラベルを使用してラダープログラムを作成できます。(例)



### ■ 表示方法

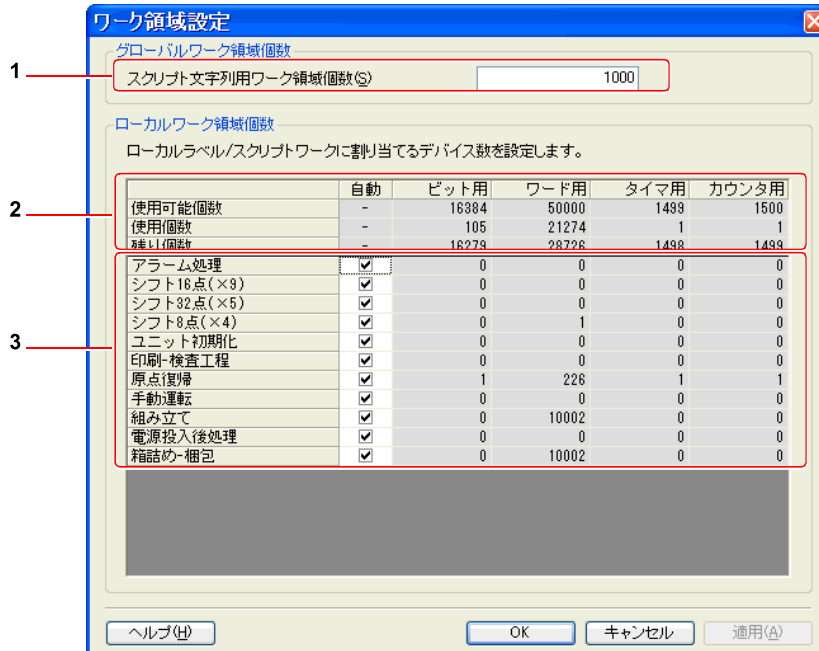
ラベル設定後、メニューから【表示(V)】→【ラベル表示(G)】により、グローバルラベルの表示/非表示を切り換えられます。

**別手順** **Ctrl** + **Backspace**

## ■ ローカルラベルの割付

ローカルラベルは、ローカルワーク領域に自動割付されます。ローカルワーク領域の使用個数の確認や割り当て個数の変更は、「ワーク領域設定」でおこないます。

「ワーク領域設定」は、《KV STUDIO》のワークスペースで【CPUシステム設定】→【ローカル全体割付設定】の【ワーク領域設定】ボタンをクリックすると表示されます。



番号	項目	説明
1	スクリプト文字列用ワーク領域個数	スクリプトで文字列関数を扱うときのワーク領域個数を設定します。 ローカルワーク領域のワード用ローカルワークを消費します。
2	使用可能個数	プロジェクト内でのローカルワーク領域の使用可能個数を表示します。
	使用個数	各モジュール/マクロのローカルワークの使用数合計を表示します。
3	残り個数	ローカルワークの残り使用可能数を表示します。 [残り個数] = [使用可能個数] - [使用個数]
	モジュールマクロ別割付状況表示	各モジュール/マクロのローカルワーク割付状況を表示します。 自動のチェックボックスをOFFにすると、各ローカルワークの使用個数が設定可能になります。

デフォルトは[自動]に設定されており、ローカルラベルの設定やKVスクリプトの記述内容によって自動的に割り付けられますので、通常は個数を意識する必要はありません。

### 参考

- モニタ時にローカルラベルの割付先を表示することができます。データ形式がビットの場合は「VB」、ワードの場合は「VM」、タイマ・カウンタの場合はローカルデバイス使用領域のデバイスで表示されます。  
 「ローカルデバイス/ローカルラベルの割付先で表示する」3-185ページ
- KVスクリプトを使用して文字列処理するプログラムを実行時に「演算エラー」が発生した場合は、スクリプト文字列用ワーク領域個数を大きくしてください。

シーケンス制御とは
プログラミング言語
プロジェクト
プログラムの構成と動作
割り込み
デバイスと定数
データの取り扱い方
モジュール
マクロ
ローカルデバイス
ファイルレジスタ
プログラミングのコツ